

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立馬込東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第1学年は、地理・歴史分野で生徒の知識の定着度に応じた授業を展開し、基礎・基本の内容が身につくようになった。
- ・第2学年は、ICTを活用した授業を展開し、資料の読み取りや内容をまとめる学習により、思考・判断・表現力が身についてきた。
- ・第3学年は、毎授業におけるICTを活用した問題解決学習を進めることで、思考・判断・表現力が身についてきた。

(2) 課題

- ・第1学年は、表やグラフに関する問題や多角的、多面的に考えて答える資料問題につまずく生徒が多いので、これらに対応できる力を養う。
- ・第2学年は、既習事項の基礎的・基本的な知識の定着を図り、複数の資料から多面的・多角的に考察し、表現する力の向上を図る。
- ・第3学年は、基礎的な知識問題を解く力に課題が見られるため、細かく復習を行いながら、知識の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	全体として、目標値には到達しているが、政治分野や歴史分野の知識・技能に関する問題で正答率が低かった。知識・技能については日々の授業を大切に捉え、取り組ませることが肝要である。		
第2学年	目標値に対して、観点別では、知識・技能で0.8ポイント、思考・判断・表現で2.3ポイント上回った。しかし、地理分野において、世界の諸地域の知識の定着、歴史分野において、中世の日本における資料の活用に関課題が見られた。	目標値に比べ、約1ポイント低い数値となった。特に、思考・判断・表現は目標値に比べ、約4ポイント低い数値となった。今後に不安を残さないために、思考・判断・表現を身につけることが喫緊の課題である。 (第1学年時)	

第3学年	目標値に対して、観点別では、知識・技能で1.7ポイント下回ったが、思考・判断・表現で、2.6ポイント上回った。活用問題よりも基礎の定着に課題が見られた。	目標値を若干下回る数値となった。歴史分野では目標値を上回るも、地理分野において、世界の諸地域に関する知識の定着に課題が見られた。(第2学年時)	目標値に比べ、約3ポイント高い数値が表れている。すべての観点において目標を達成しており、基本的な学習内容を身につけることができる。(第1学年時)
------	--	---	--

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
政治分野の国事行為、三権分立など平均値には達しているものの、少々心もとない気がする。また、歴史分野の江戸時代と明治時代の人物に関する正答率が低いので、今後の授業で正確な知識を習得させていく必要がある。	思考・判断・表現については大きな取りこぼしは見られなかった。この結果に満足せず、思考・判断・表現の育成を意識した授業を展開していく。	目標値を上回っている。地理と歴史の分野により、学習に取り組む態度にムラが生じやすいので、どの分野でも取り組みやすい授業が望まれる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標に対して、0.4ポイント上回った。地理分野では世界の諸地域、歴史分野では縄文時代～古墳時代の基礎的・基本的な問題に苦手意識がみられる。	目標に対して、3.6ポイント上回った。地理的分野では資料を活用して問題を解く力が身についてきている。しかし、歴史的分野の中世の日本においては、複数の資料を活用して問題を解く力が弱い。そのため、思考・判断・表現力を意識した授業展開をしていく。	教科全体として目標値を上回っている。地理的分野における無回答率が比較的多い。そのため、生徒が興味をもち、主体的に授業に取り組めるような授業が求められる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標に対して、1.7ポイント下回った。地理分野での日本の自然環境や、歴史分野の基礎問題に苦手意識が見られる。	目標に対して、2.6ポイント上回った。地理分野で課題が見受けられるが、全体的に活用問題を解く力が身についている。	教科全体として、目標値とほぼ同数値となった。歴史分野における無解答率が比較的高い。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業のノートは授業を再現するものなので、丁寧かつ正確なノートづくりをさせたい。また、授業では発問を繰り返し、以前学習した内容の定着を図る。また適宜単元テストを実施し、一様に知識が定着するような配慮をする。	授業中に問題解決だけの時間を設定し、思考力や判断力を養う。思考力・判断力はきちんとした知識の上に成り立つものなので、復習や継続の大切さを生徒間に浸透させる。	毎時間、口頭試問を行う。宿題や提出したノートを吟味する。問題解決学習を取り入れ、その中で評価項目に従って主体性をチェックする。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎時間の授業で既習事項や前時の復習を行い、基礎的・基本的な用語の習得と重要語句の定着度合を単元テストにより、確認していく。また、授業プリントやノート整理により、復習しやすいノートづくりをさせていく。	写真資料だけではなく、表やグラフなどを活用し、読み取り、それを表現する力を身に付けさせていく。また、授業内で資料の読み取りと表現する学習活動を行い、思考力を身につけさせていく。	毎授業に知識を確認する問題を取り入れていく。また、ICTを活用した学習活動を積極的に取り入れ、主体的に取り組めるようにする。今後とも生徒が楽しいと思える授業づくり、授業展開に邁進する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
授業プリントをノートに整理しながら、復習をしやすい学習環境を継続して整える。また、小テストを適宜行いながら、基礎的な知識の定着を図る。	学習レポートやICTを活用した学習で考察力を高め、協働学習を中心に、思考力や表現力を伸ばしていく。	毎授業において、問題解決学習を軸に、ICTや協働学習を活用しながら、学習への意欲を高めていく。評価項目を明確にし、生徒の主体性を伸ばしていく。